

テンパス



TEMPUS

2019年(令和元年) **69**号



地藏堂遺跡の発掘調査



貝塚寺内町遺跡の発掘調査

い せ き
企画展「貝塚市の遺跡を掘る
ー昭和・平成の調査を振り返ってー」
(10月20日(日)まで開催)

も く じ

企画展「貝塚市の遺跡を掘る - 昭和・平成の調査を振り返って - 」

夏休み子ども向け企画「拓本講座」 / 小学校巡回展示「貝塚の古墳」

東京オリンピックと貝塚 - 貝塚市歴史展示館の展示資料から - ①

／ 市役所本館で文化財のミニ展示を開催しています

古文書講座 - 市内に残る身近な古文書 -

貝塚市立自然遊学館に「和泉葛城山ブナ林」の展示コーナーができました

／ 参加者募集のお知らせ

・地域史『貝塚市の70年』を読む会 秋の記念講演会

・現地見学会「水間街道を探訪しよう - 行基と楠木正成のゆかりの寺院を訪ねて - 」

文化財講座・セミナー

企画展「貝塚市の遺跡を掘る-昭和・平成の調査を振り返って-」

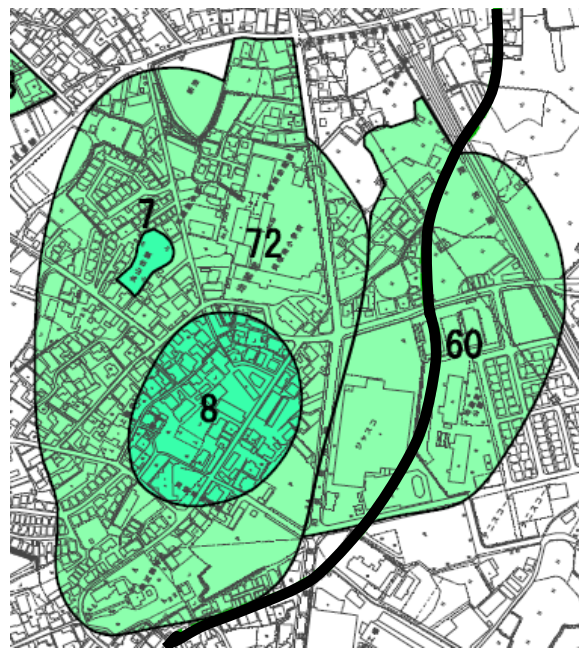
貝塚市内の遺跡を保護するため、市内の遺跡発掘調査は昭和50年代から平成の時代へと継続して行ってきました。令和の時代を迎えて、貝塚市郷土資料展示室では上記タイトルの企画展を開催しています。今回のテンプスでは、貝塚市の歴史を考える上で、新たな発見となった地蔵堂遺跡、貝塚寺内町（じないちょう）遺跡の2つの発掘調査をピックアップして、紹介します。

<遺跡とは？>

昔の人の暮らした跡が、土の中に埋もれている場所を『遺跡』と呼びます。遺跡からは、建物、水田、道路、溝などの遺構（いこう）、昔の人が使った道具（土器や石器など）や建物の瓦などの遺物（いぶつ）が見つかることがあります。

遺跡は、①地表に土器の破片が見られる範囲をくくったもの、②古絵図などによって寺社や城跡などの場所や範囲が推定できるもの、③開発によって遺物や遺構が見つかって新たに遺跡とされたものがあり、その場所や範囲は遺跡地図にまとめています。

昭和53年に市内の遺跡は56カ所でしたが、その後、開発に伴う発掘調査の中で次々と遺跡が発見され、現在124カ所まで増加しています。

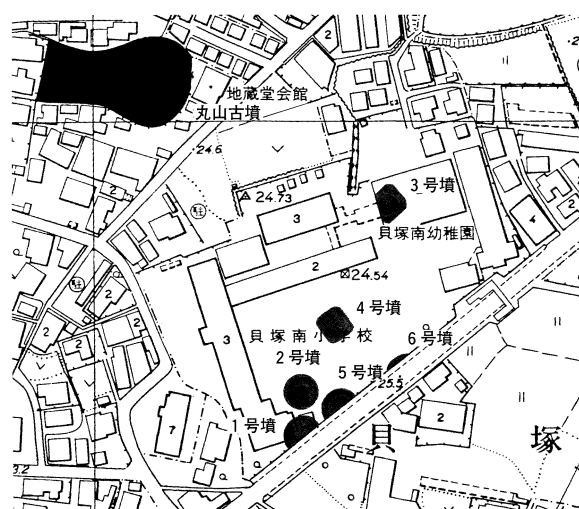


貝塚市の遺跡地図（部分）

（7. 丸山古墳、8. 地蔵堂廃寺、72. 地蔵堂遺跡、60. 王子遺跡、太線は熊野街道）

地蔵堂遺跡で古墳を発見 昭和56・60年度、平成15年度調査

昭和56（1981）年、市立南小学校の校舎増築のために発掘調査を実施した結果、古墳時代の須恵器（すえき）、墳丘（ふんきゅう）が削り取られた周溝（しゅうこう）が残る円墳（えんぷん）（1号墳）を発見しました。その後、昭和60（1985）年には、昭和56年度に調査した地点を拡張して発掘調査を実施し、1号墳の続きの周溝、新たに円墳（2号墳）の周溝の一部も発見しました。また、体育館の建替え工事に伴って発掘調査を行い、方墳（ほうふん）（3号墳）を発見しました。これらの古墳を発見するまで、前方後円墳の丸山古墳（国史跡）は単独で造られたと考えられてきましたが、複数の古墳が築かれたことがわかり、地蔵堂古墳群と名付けました。



丸山古墳と円墳・方墳

さらに、平成15年度に市立南小学校で校舎の増築工事に伴って調査を行いました。事前

の試掘調査では、運動場で方墳の一部の周溝（4号墳）を発見し、発掘調査を実施した結果、2号墳の周溝の続き、近接して新たに円墳（5号墳）の周溝、少し離れて古墳の周溝と考えられる溝（6号墳）を発見しました。

これらの古墳が、墳丘を削り取られて周溝だけが残る状態で発見されたことは、先にも述べましたが、墳丘を削り取られたのは中世の時代と考えられます。中世には、土地の制度が変わり貝塚市域は高野山などの荘園となります。調査では、中世の柱穴や井戸も見つかっており、この時代に古墳を壊して建物を建て、井戸を掘り宅地にしたことがわかりました。遺跡発掘調査から、その土地の移り変わり、歴史がわかったのです。



発見した2号墳・5号墳と井戸

貝塚寺内町遺跡の発掘調査 平成4年度調査

室町時代末期に、市域の海岸部に新しい町ができました。この町は、浄土真宗の寺院（後の貝塚御坊願泉寺（ごぼうがんせんじ））を中心にして造られた貝塚寺内町（じないまち）です。町の南北に紀州街道が通り、まわりには濠（ほり）が掘られ、濠を掘った土を盛り上げて土塁（どるい）が築かれました。

平成4年に北町の紀州街道沿いで行った発掘調査では、丸瓦、軒平（のきひら）瓦などの瓦が多く見つかっています。瓦の中には赤く焼けた瓦があり、赤く焼けた土や炭が見られることから、調査地が火災によって焼失したことがわかりました。

また、中国から輸入した白磁碗（はくじわん）、備前焼大甕（びぜんやきおおがめ）も見つかっており、特に、備前焼大甕は3点並んで地面に埋められた「埋甕（うめがめ）」の状態で見つかっています。商家などの建物内に設置されたものと考えられ、大甕の表面に「二石（にく）入」（約360リットル）と線刻（せんこく）されていることから、中には水や油などの液体を貯蔵していたと考えられます。調査地は、見つかった白磁碗や備前焼大甕の時期から判断して、16世紀後半から17世紀初めにかけての遺構と考えられます。



見つかった備前焼大甕

この調査成果により、寺内町の原初集落は紀州街道周辺に造られ、その成立時期は、歴史学（文献史学）で考えられている16世紀後半であることが明らかになりました。

今回の企画展では、これ以外にも遺跡から出土した遺物、見つかった遺構の記録写真などの発掘調査成果をもとに、特徴のあるものを旧石器時代から江戸時代まで、時代別に振り返っています。

また近年、文化財資料の公開活用が盛んに取り組まれるようになっていきます。このような展示を通して市民の皆さんに調査成果を紹介していきますので、ぜひ郷土資料展示室に足をお運びください。

「拓本講座」

令和元年8月25日（日）午後1時より、市民図書館2階視聴覚室において、夏休み子ども向け企画「拓本講座」を開催しました。

まず、最初に比較的簡単な「乾拓（かんたく）」に取り掛かりました。乾拓はモノ（資料）を机に置き、その上に紙を当てて、鉛筆を斜めに傾けてこするように動かして、モノの文字や模様を紙に写し取るものです。今回は江戸時代に使われていた「寛永通宝」などの古銭を使いました。

次に「湿拓（しったく）」と呼ばれる墨を使った拓本を行いました。今回は瓦やレンガなどを使いました。拓本を取るモノを机に置き、霧吹きで水を掛け、その上に紙を当てて、さらに水を吹きかけます。十分に湿らせた後、タオルを使って凸凹の部分がハッキリと浮かんでくるように、紙を強く押さえ付けてモノと密着させます。ここで紙が破れないようにするのは難しく、コツが必要です。そして乾いてきたら、拓本専用の墨を付けた「たんぽ」を使って、紙の上をトントンと叩いていきます。あまり墨を濃くし過ぎないように、薄く付けていきます。

2回、3回と繰り返すうちに上達していき、保護者の中には子どもと一緒に挑戦する方もいて、初めての拓本を楽しんでいただきました。

今後も地域の歴史や身近な文化財に触れていただける、子ども向け企画に取り組んで参ります。



墨のついた「たんぽ」で
瓦の模様を写し取る参加者

小学校巡回展示「貝塚の古墳」

令和元年4月12日から7月12日にかけて、昨年度の「岩橋善兵衛の科学技術」に引き続き、今年度も市内11小学校で巡回展示「貝塚の古墳」を開催しました。

今回は、貝塚市にある唯一の前方後円墳、丸山古墳を含む地蔵堂古墳群にスポットを当て、写真パネルや地図、発掘で見つかった埴輪（はにわ）や須恵器（すえき）などを展示しました。

中には「化石？」と尋ねてくる児童もいましたが、「南小学校の校舎の下に古墳があった」という話に強い興味を持ち、子どもたちは食い入るようにケースをのぞき込んでいました。



須恵器をのぞき込む子どもたち

東京オリンピックと貝塚 - 貝塚市歴史展示館の展示資料から - ①

貝塚市は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会において、女子卓球種目で台湾を相手地域としたホストタウンとして、現在、数多くのホストタウン事業を進めています。テンプスでは、今号から数回にわたり、オリンピックを身近なものと感じていただけるよう、貝塚市歴史展示館の展示資料から、1964年の東京オリンピックと貝塚に関するエピソードを紹介します。

半田にある貝塚市歴史展示館（ふるさと 知っとこ！館）周辺は、もとは大日本紡績株式会社（のちニチボー株式会社、ユニチカ株式会社）貝塚工場の跡地です。この場所は、「東洋の魔女」の異名で知られ、1964年の東京オリンピックの女子バレーボール種目で金メダル獲得に貢献した「ニチボー貝塚」チームの練習拠点でした。

ニチボー貝塚が練習に使った旧体育館は、貝塚工場の食堂を改築した建物でした。この体育館では、「鬼の大松」とよばれた大松博文監督の指導のもと、毎日厳しい練習が行われ、ニチボー貝塚は当時世界一のチームになりました。

貝塚市歴史展示館には、ニチボー貝塚の得意としたレシーブ技術「回転レシーブ」を生んだ旧体育館の床板の一部が残され、展示資料の目玉の一つになっています。床板は、およそ3 m×2 m、厚さ9 cm、サクラ材製で、現在も選手たちが練習で流した汗の跡が残っているかのようです。

旧体育館はその後ニチボー貝塚の練習拠点として長く使われましたが、後を引き継いだユニチカ・フェニックス（平成12（2000）年廃部）の時代には新たな体育館が建設されました。この体育館は改装され、平成28（2016）年より日本生命女子卓球部（日本生命レッドエルフ）の練習拠点となっています。来年の東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会では、このニチボー貝塚の伝統を引き継いだ地で練習を続ける選手達の中から、新たな東洋の魔女が生まれることを期待しましょう。



歴史展示館で展示中の旧体育館の床板

市役所本館で文化財のミニ展示を開催しています

市役所本館のロビーに設置している展示ケースでは、文化財に関するミニ展示を開催しています。このミニ展示は、郷土資料展示室および貝塚市歴史展示館の紹介展示と位置づけて、両施設で開催している企画展や特別展に合わせて展示替えを行い、展示内容に関連する資料や写真を展示しています。

現在、郷土資料展示室企画展「貝塚市の遺跡を掘る - 昭和・平成の調査を振り返って - 」と歴史展示館企画展「貝塚港・阪南港のいま・むかし」に関連する考古資料や港湾関係資料、写真等を展示しています。市役所にお立ち寄りの際には、ぜひご観覧ください。



市役所本館での文化財のミニ展示

◆江戸時代の抜け荷と異国船

令和元年6月5日から7月10日にかけての水曜日、全5回にわたり「江戸時代の抜け荷と異国船」と題して古文書講座を開催しました。

江戸時代、キリスト教国からの人の来航や日本人の出入国を制限し、貿易を管理・統制する政策、いわゆる「鎖国」が行われていました。そのような中、江戸時代にたびたび禁止令が出された抜け荷と、長崎で



古文書解読に集中する受講者のみなさん

の貿易を許されていたオランダ・中国以外の国がやってきた時の対応を古文書（要家文書<畠中>・福原家文書<福田>など）から読み解いていきました。

18世紀中期に出された幕府のお触れ書きによると、①漂流船を装っている事例が近年確認されていること、②抜け荷の取り締まりを徹底することを求めています。特に領主に対しては、抜け荷をした者が他所で捕えられた際は、領主の「越度」（おちど＝過失、失態）として、幕府は取り締まりが不十分な領主の責任を厳しく追及する姿勢に立っていました。とりわけ長崎近辺は抜け荷が繰り返し行われたため、「舟切手」と呼ばれる船の交通手形の検査を厳しく行い、抜け荷をする者に船を貸した者は捕まえるようにとの方針が示されました。

また、同時にキリスト教宣教師の日本への入国を禁止し、日本人に変装してやってくる南蛮人の子孫に対し警戒するよう呼びかけています。島原の乱後ますます厳しくなる禁教令のため、日本近海にやってくる異国船に注意を払い、不審な者の密告を奨励し、拷問にもかけるという江戸時代の暗い側面を古文書から読み解きました。

古文書講座 60（通算 287 回～291 回）

テーマ 江戸時代の凶作と歎願（たんがん）

日時 第1回 令和元年10月9日、

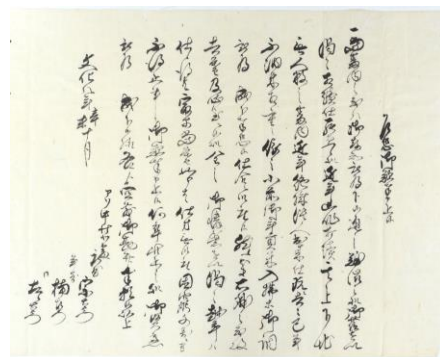
第2回 10月16日、第3回 10月30日

第4回 11月6日、第5回 11月13日

いずれも水曜日午後1時15分～3時45分

会場 貝塚市民図書館2階視聴覚室

資料代 100円



凶作打ち続きにつき

年貢越年願い（要家文書）

申込 住所・氏名・電話番号を電話・ファックス・Eメールのいずれかで、右記の連絡先まで事前にお申込みください。



ブナの切り株の標本が目印の展示コーナー

貝塚市立自然遊学館に 「和泉葛城山ブナ林」の 展示コーナーができました

天然記念物として保護・増殖が進められている和泉葛城山のブナ林を紹介するとともに、ブナ（樹齢は250年以上）の切り株の標本を中心に、展示コーナーを設けています。ぜひお立ち寄りください。

参加者募集のお知らせ

地域史『貝塚市の70年』を読む会 秋の記念講演会

今回の秋の記念講演会では、「貝塚市の陸上競技」をテーマに、中学2年から陸上競技を始め、当時の帝国産業株式会社（現、株式会社テザック）陸上部の選手とも交流し、その後も陸上競技一筋に力を注いでこられた寺田伸司さんにお話を伺います。

日 時 10月20日（日）午後2時～3時30分

講 師 寺田伸司さん（貝塚市陸上競技協会 会長）

会 場 貝塚市歴史展示館（ふるさと 知っとこ！館）

なお、11月以降も引き続き、テーマに沿った講座を毎月開催してまいります。日程・内容は8頁掲載のとおりですので、ふるってご参加ください。



1964年の聖火リレー（貝塚市内）

第120回 かいづか歴史文化セミナー

現地見学会「水間街道を探訪しよう

- 行基と楠木正成のゆかりの寺院を訪ねて -

楠木正成ゆかりの妙順寺から行基ゆかりの水間寺までの旧水間街道を探訪します。妙順寺では妙順寺前住職と文化財担当職員による講演会を行います。

集合時間 12月22日（日）午前11時45分

集合場所 水間鉄道三ツ松駅

費 用 無料（交通費は各自でご負担ください）

定 員 100人（定員になり次第締切）

※今回のセミナーは、すいてつ沿線魅力はっしん委員会のイベントの第1部として開催します。水間寺での第2部では、3公民館のクラブによる実演や猿回しなどを楽しんでいただけます。



妙順寺

連絡先 〒597-8585 貝塚市畠中1丁目12-1（貝塚市民図書館2階） 貝塚市郷土資料室
TEL 072 (433) 7205 / FAX 072 (433) 7053
Eメール shiryoushitsu@city.kaizuka.lg.jp

文化財講座・セミナー

郷土資料展示室

◆10月

- 郷土 5日(土) 13:30～ 第119回かいづか歴史文化セミナー
講演会「貝塚市の発掘調査を振り返って」
- 郷土 9日(水) 13:15～ 古文書講座60「江戸時代の凶作と歎願」①
- 郷土 16日(水) 13:15～ 古文書講座60② (たんがん)
- 歴史 20日(日) 14:00～ 地域史『貝塚市の70年』を読む会
秋の記念講演会「貝塚市の陸上競技」
- 郷土 30日(水) 13:15～ 古文書講座60③

企画展
「貝塚市の
遺跡を掘る
－昭和・平成の調査
を振り返って－」

10/20(日)

◆11月

- 郷土 6日(水) 13:15～ 古文書講座60④
- 郷土 13日(水) 13:15～ 古文書講座60⑤
- 歴史 24日(日) 14:00～ 地域史『貝塚市の70年』を読む会37
「市立貝塚病院と地域医療」

◆12月

- 歴史 15日(日) 14:00～ 地域史『貝塚市の70年』を読む会38
「公園墓地建設と東山のまちづくり」
- 郷土 22日(日) 11:45～ 第120回かいづか歴史文化セミナー
現地見学会「水間街道を探索しよう
－行基と楠木正成のゆかりの寺院を訪ねて－」

12/14(土)

「貝塚市の
指定文化財」展
第3期

◆1月

- 歴史 26日(日) 14:00～ 地域史『貝塚市の70年』を読む会39
「蕎原小学校の廃校と山間レクリエーション施設」

※ 郷土 : 郷土資料室 歴史 : 歴史展示館

貝塚市歴史展示館（ふるさと知っとこ！館）企画展 -開催中- 「貝塚港・阪南港のいま・むかし」

古くは寺内町として栄えた貝塚の町は、港町でもありました。
今回の企画展では、近現代の変化を捉え、大型船舶の停泊が
可能となる貝塚港への改修、大阪府により重要港湾阪南港とし
て忠岡港・岸和田港と一体整備されていく様子を紹介します。

会 期 令和元年12月28日(土)まで

開館時間 午前10時～午後4時(正午～午後1時は閉館)

〈会期中の休館日〉

- ・毎火曜日
- ・10月14日(月・祝)
- ・10月23日(水)
- ・11月3日(日・祝)
- ・11月4日(月・振替)
- ・11月23日(土・祝)

かいづか文化財だよりテンプス69号



令和元年10月4日発行
貝塚市教育委員会
〒597-8585 貝塚市畠中1丁目17-1
Tel(072)433-7126 Fax(072)433-7053
Email: shakaikyoiku@city.kaizuka.lg.jp
※テンプスとはラテン語で「時」を意味します。
年3回発行:各1,000部



貝塚市イメージ
キャラクター
つげさん
貝塚市特産品「つげ櫛」
をモチーフとしたデザ
イン。